

佐伯史談会 宇目町文化財探訪

五月十五日（日）参加会員二五名

宇目町はその昔、延喜式（延喜五年（九〇五）に編纂開始）駅制により、小野駅馬十四（豊後九駅の中で馬十四匹は小野駅だけで、他の駅は馬五匹）が置かれ、早くより交通の要衝として開けたところである。

宇目町にはなぜか文化財が多い。種類も多様である。

国指定のカモシカ、県指定では切支丹柄鏡・重岡キリシタン墓（るいさの墓）・宇目の野生桐・塩見大師庵宝塔・藤河内溪谷・千束築と多様である。

佐伯史談会員は一日中、軸丸勇氏の案内で探訪を続けたが、まだ一部にすぎない。木浦地区の探訪だけでも一日中にかかることである。

見学事項について詳しく報告したいが、本号はすでに予定紙数を超えているので、見学場所をあげ、一部の写真で報告に替えたい。

慶安寺の石造物——上爪の石塔群——塩見大師庵宝塔

——長昌寺——重岡キリシタン墓（るいさの墓）——田

野磨崖仏——宮野観音（石像）——市園道祖神——（昼

食）——深田墓地と高野惣衛門の墓——崇円寺宝篋印塔

と深田代官墓——三十三基庚申塔——榑木野五輪塔群——

上津小野の石幢。

以上の箇所を軸丸氏の詳しい解説をききながら、じっくり見学した。

時間はまたたく間に過ぎ、見学を予定した所も割愛しなければならなかった。我々の身近なところに、こんなすばらしい文化財の数々が残されていることに驚くと共に、なぜこうも多いのだろうかとの質問も出た。（解答略）

充実した探訪ができたのは、各方面にわたる軸丸氏のみなみなならぬご尽力のおかげである。誌面を借りて心からお礼を申し上げます。（宇目町の文化財については『ふるさと文化財うめまち』に詳しい）



塩見大師庵宝塔

大分県指定文化財、総高二五〇センチ、貞和五年丑己十月二十八日と北朝の年号の刻あり、雄大で安定感あり、技巧もすぐれている。同年代の宝塔としては九州でも随一といえる。

上爪板碑

この板碑は佐伯・南郡では見ることできない雄大なもの。塔高二層下部幅五二センチ上部幅三二センチ円の中にキリーク（阿弥陀）を彫りこみ、その下の板碑形の彫り込みには戒名と思われる文字を刻んでいる。



子安観音

上爪の慶安寺は現在昔の面影はないが、境内には石像が多い。神仏習合を語る神の石像も数々ある。

この子安観音は大きい方で台座を入れると二層をこす。

榑木野五輪塔群

六基の五輪塔と四基の一石五輪塔がある。最大なものは総高一六〇センチ、無傷で完体の堂々たるものである。

宇目町には五輪塔は至るところにあるがその中の代表的なものである。



市園道祖神

道祖神としての庚申塔や青面金剛塔・猿田彦命塔などは数多くあるが、文字で道祖神と刻んでいるものは、佐伯・南郡では他に見かけない珍しいものである。

総高一〇八センチ



重岡キリシタン墓

長さ一八〇センチ幅八六センチ高さは軸部二七センチという巨大な伏墓であるが、写真ではわかりにくい。

豊後には多数のキリシタン墓があるが、この墓のように十字章、教名、没年月日のそろっている墓はない。